

汉字研究新视野丛书

HANZI TITAI LUN



汉字

体态论

刘志基 著
广西教育出版社

本丛书获第三届全国图书奖提名奖
本丛书列入国家“九五”重点图书出版规划

汉字研究新视野丛书

臧克和 主编

汉字体态论

刘志基 著
广西教育出版社

汉字研究新视野丛书

汉字体态论

刘志基 著

☆

广西教育出版社出版

南宁市鲤湾路8号

邮政编码:530022 电话:5850219

本社网址 <http://www.gep.com.cn>

读者电子信箱 master@gep.com.cn

全国新华书店经销 广西民族印刷厂印刷

*

开本 850×1168 1/32 12.625 印张 300 千字

1999年7月第1版 1999年7月第1次印刷

印数:1—2 000册

ISBN 7-5435-2748-0/H·80 定价:36.00元

如发现印装质量问题,影响阅读,请与承印厂联系调换

内容提要

本书立足于文化整合的视角,着眼于汉字与中国文化方方面面千丝万缕的血肉关联,系统揭示汉字体态发生、演变的运动规律,深入阐释汉字独特视觉形态底层的塑造、维系系统。在汉字研究的学术发现、思维方式及表述方法等方面,本书都显示了充分的独创性。

内容の要点

「漢字体態論」は文化整合の観点に立脚して、漢字と中国文化の各分野とさまざまな緊密なつながりに気をつけて、漢字形態の発生と演変の運動法則を示して、独特な漢字形態を深層に形作る要素と支える系統を論じている。漢字研究の学術発現と思惟方式と表わす方法の面に本書は独創性がよく現われている。

ABSTRACT

From the angle of cultural conformity, focusing on various ties between Chinese characters and Chinese culture, the book reveals systematically the occurring and developing rules of Chinese characters shape; Explained in depth the moulding and maintaining system at the bottom of Chinese Characters' unique visual shape. On many sides of Chinese Characters study, such as academic discovery, mode of thinking and ways of expressing, the book was fully original.

汉字研究——永具魅力的历史课题 (总序)

仿佛投石激浪，又恰似一鸟鸣春，“汉字研究新视野丛书”第一辑问世后，引起了积极的反响。新闻媒体多次评价，一些高校选作教材，丛书还荣获第三届国家图书奖提名奖。一时间海内外不少同道来函来稿，希望加盟丛书。经过一年多的精选精编，如今，丛书的第二辑又摆到了读者的面前。

一套书构成了一道风景线。一个研究课题引发了许多深沉的思考。

思索之一，关于出书难的问题。

学术界有出书难的感慨，出版界有好书稿难觅的苦衷。解决的办法，是学术界、出版界达成共识，把写好精品书、出好精品书当成严肃的大事，共同抓紧、抓好。“汉字研究新

视野丛书”在策划选题之初,就追求精品境界,定位在新视野,立足于攀高峰。回头审视丛书,虽然离高峰尚远,但是我们当努力奋发,登攀不止。

思索之二:汉字研究如何出新。

中华民族是伟大的民族,历史悠久,文化独特,汉字就是一个伟大的创造。汉字研究应该驰骋于民族的智慧场,以研究方法的多元为手段,以建构本体意义的文字学为目标,以人文的终极关怀为指归,以提升大众的文字审美为使命,从汉字发生学的描述层、阐释层、概括层走向理论层,把尊重前人、时贤的阐发和个人独特的发现结合起来,开创一个崭新的文字学研究的新局面。

本丛书第一辑的特点在“宽”,意在定下研究的大层面:《汉字文化综论》谈的是汉字文化研究的方法论;《汉字与书法文化》进行的是书体与字形的文化探录;《〈说文〉汉字体系与中国上古史》(1999年版改为《〈说文〉汉字体系研究法》)是对汉字本真面目的历史大扫描;《中国文字与儒学思想》则试图进行一场汉字系统与哲学、经学的学术对话。第一辑展开的是汉字系统的文、史、哲、经、艺等方面的大文化研究。

本丛书第二辑的特点在“专”,意在追求研究的深层次:《〈说文〉小篆研究》是对汉字体系构形学发展史的篆隶演变的系统清理;《马王堆帛书汉字构形系统研究》是抓住古今汉字转换阶段,对马王堆出土帛书进行穷尽性的分析,深入剖析汉字构形系统的过渡;《汉字体态论》则是对汉字构形史、汉字形体学的溯源和前瞻。第二辑总的是对汉字系统的内部构造作规律性把握。

21世纪是知识经济的时代。知识经济的勃兴对人类智慧资源的开发提出了崭新的命题,提示了全新的科研思路,开启了科学发展的广阔空间。

汉字是中华传统文化中的元点文化,它既是民族文化

之根,又是民族精神的气脉和灵魂。汉字的意象范式,体现着中华民族的心理特点、思维品格和审美创造。一部汉字发生、发展的历史,演绎着中华民族的心灵史。研究汉字就要寻根求源,追本索真,完成文字—文化—人化的科研课题^①。丛书第二辑力图穷原型之奥,把转换之机,对战国到秦汉之际的出土文字材料(如简帛书)进行系统的梳理,对传世文献(如《说文解字》)所录字形字体进行对照比勘,同时广泛观照其他考古发掘、史前纹样、民俗实物及至高科技电脑造字等,从多视角、大层面上对汉字文化蕴含作出全新的阐释。这是对民族文化的元点解读,是对民族智慧的元典阐释。只有在做了一番艰苦深入、推陈出新、继承弘扬的学术研究之后,我们才有资格、有条件、有本钱来谈论传统文化的现代转换,才有可能进行人文资源的开发,从而实现传统文化与世界、与现实的对话。

这种对话是学术界、出版界所心驰神往、孜孜以求的。抓住汉字这一元点文化,抓住汉字文化这一具有世界意义的历史课题,通过对它们的现代解读,中国学术界、出版界就有可能在当今世界上发出强劲的中国之声。学术要走向世界,首先要回归本土;出版要与世界与现实对接,同样要张扬本源、强化自我。在人类文明发展史上,西学东渐推动了中国的现代化启蒙;东学西渐同样也会推进全人类的和合。现代转型、文化传薪是我们的使命,也是我们对世界文化应作的贡献。

这种对话是富有创造精神、创造激情的。我们说汉字文化是元点文化,是指它具有无比丰富的蕴含和无限旺盛的生机。汉字体现了天—地—人的三元存在,包含着自然—社会—宇宙的三维空间,涵盖了过去—现在—未来的

^① “文化”的本性是“人化”。参阅樊浩:《概念诠释系统与文化难题的突破》,《光明日报》1995年8月3日第5版。

三维时间,沟通了源头——发展——创新的三重创造。研究对象的深沉博大,呼唤着研究者的深沉博大;高品位的汉字文化研究,营构着高品位的学术品格、学术风范;汉字文化的审美创造,同样也创造了审美的民族。新时代的学人应该具有审视过去、烛照未来的功力,应该与人类文明齐步前进。文化元点是辉煌的,作为初始的创造,是不可替代、不可漠视甚至不可超越的。但是作为起点,它又是要发展的,发展使它具有永恒的生命价值;作为指向未来的出发点,它又是必定被未来超越的,超越使它拥有无限的存在价值。^①作为汉字文化研究者,我们既要有历史感,更要有使命感。忘记了历史,就失去了根基,最终也失去了未来;忘记了使命,就失去了希望,最终也失去了生命的意义。正因为明白这一学术使命,我们将一如既往,以开放的心态营构开放的研究:本丛书热切期待着富有创造精神的新作。作为第三辑,我们将推出《比较文字学》、《汉字心理学》、《中韩汉字比较研究》、《中日汉字比较研究》等。

时代的转型呼唤学术的转型,学术的转型期待转型的学者。

转型才能焕发生机,转型才能参与现代学术理论的结构。

人永远生活在历史境遇之中。汉字文化研究既是一种历史性存在,又是一种拥有无穷魅力的历史课题。

我们将努力进行创造性的工作。

只有不断创造,我们才无愧于祖国,无愧于人类。

李人凡 臧克和
1998年4月南宁—上海

① “历史起点的不可超越与被超越”,参阅韩震:《创造性地对待历史传统》,《光明日报》1998年3月20日第5版。

漢字研究——いつまでも魅力 を持つ歴史課題

(総まとめのまえがき)

川に石を投げると、波瀾が起こるように「漢字研究新視野叢書」の第一集は出版してから積極な反響を呼んでいった。新聞媒介に引切りなしに評価されて、ある大学に教科書にされて、更に第三屆国家図書賞提名賞を受賞された。ここしばらく、国内と国外の同業からの原稿と手紙がたくさんあって出版に与る意を表していた。一年の間余りを経過してたんねんに選択と編集して、ついに、このシリーズの第二集も出版するようになった。

一つのシリーズが一つの風景を成している。

一つの研究課題がいろいろの思索を引き起こしている。

その一つは書物の出版するのが難しいことについての問題である。

学術界は書物の出版が難しいという感慨が深く、出版界は良質の原稿を狙いにくい苦衷がありである。それを解決する方法は学術界と出版界が共通の認識がまとまって良質の書物の創作と出版のことに厳粛な大きな事柄として一緒にそのことに力を入れるのである。「漢字研究新視野叢書」の画策の時でも精良な品質を求めて、新しい視野を狙って絶頂に登攀することにした。顧みている、このシリーズは絶頂から遠く離れているが、われわれはもう一息力を入れなければならない。

もう一つは漢字研究にどんなに新たな仕事を始めるでしょうか。

中華民族が偉大な民族であり、ふるい歴史と独特な文化を持っている。漢字は偉大の創造の一つである。漢字研究は民族の知恵を発揮して、多元的な研究方法を手段として、文字学の自体の意義を打ち建ててのを目当てとして、人類文化の根本の関心を主旨として、大衆の文字の審美眼を高めることを使命として、漢字の発生の描写と闡明と概括の層から理論の層へ進め、歴代の賢哲の闡述と自分の独特の発見と結び付けて、全く新しい文字学研究の局面を開発すべきである。

第一集の特色は幅が広く、研究の大きい層面を定めている。「漢字文化綜論」は漢字文化研究の方法論を論述した。「漢字と書法文化」は漢字の書きぶりや字形について文化的にたずねた。「『説文』漢字体系と中国上古史(1999年の版本の書名「『説文』漢字体系研究法」に変わった)は漢字の本来の姿について全面的に揭示した。「中国文字と儒学思想」は漢字系統が哲学経学と学術的に対話した。とにかく、第一集は漢字系統の「文史哲経」の方面を巨視的に研究したシリーズである。

第二集の特色は専門である。つまり漢字研究のおく

そこまできわめるように求める。「『説文』小篆研究」は漢字形体の発展史の篆隸演變の段階を徹底的に整理した著作である。「馬王堆帛書漢字構形系統研究」は漢字の古今轉換の段階を掴んで馬王堆から出土した帛書を全面的に見分け、漢字字形の系統の過渡を分析した著作である。「漢字体態論」は漢字構形の發生原因と演變法則と未來傾向を探求した著作である。要するに、第二集は漢字系統の内部の構造法則を握たものである。

二十一世紀は知識經濟の時代である。知識經濟が盛んに起こすのは人類知恵の資源の開發することに新しい命題を提起している。全くの新しい研究の思いを諭し示って、科學の發展の広い空間を繰り広げている。

漢字は中華傳統文化のなかの元始のものである。民族文化の根元でもあれば民族精神の氣脈と靈魂でもある。漢字のイメージの範式は中華民族の心理特徴と思惟品格と審美創造を體現している。漢字の發生と發展と移り変わりの歴史は中華民族の心靈の歴史を実演して見せている。それで漢字の研究は根ほり葉ほり尋れ、文字—文化—人化という研究課題を完成しなければならぬ。^① 第二集は正体の秘密を究めて、轉換点を掴んで、戦国から秦漢まで出土した文字資料(簡帛書のような)を系統的に整理して、古代から伝わってきた文献(「説文解字」のような)記録した字形を照らして合わせて、それからまた別の考古の發現と史前の紋様と民俗の品物とコンピューターでつくった文字などを觀察してあらゆる角度から大きい層面に立脚して漢字の文化蘊含を全く新しく解明している。それは民族文化の元始の点を解説しているこ

① 「文化」の本性が「人性」だということについて樊浩の「概念詮釋系統と文化難題の突破」(「光明日報」の1995年8月3日)を参照してよろしい。

とであり、民族知恵の根源を闡明していることである。苦しく深く古きを推して新しきを出す研究して始めて、我我は伝統文化が現代への転換することを談論する資格と条件と元手が持って人文資源を開発して伝統文化が世界と現実との対話を実現することができる。

という対話は学术界と出版界が憧れて孜孜として求めるものである。元始の点の文化とする漢字と世界の意義を持った歴史課題の漢字文化を掴んでそれを現代の解説を通じて、中国の学术界と出版界は当今の世界に強い中国の声をかけるかもしれない。學術は世界の方に向かって発展すると思えばまず本土へ戻さなければならぬ。それと同じように出版は世界と現実とつなぎ合わせようと思えば根源の優勢をのぼして、自身を強くしなければならない。人類文明の発展史のうゑに西学が東へ漸進したのは中国の現代化の啓蒙を推し進めた。それと同じように東学が西へ漸進するのも人類文化の融合を促すことができる。現代へ転位させて、文化の引き続くのは我我の使命であり、我我が世界文化に対して貢献すべきである。

という対話は創造の精神と激情に富むのである。漢字文化が元始の点の文化だというのはそれが豊かの蘊蓄があつて活気に富んでいるからである。漢字は自然—社会—宇宙という三次元空間を受け入れて、過去—現在—未来という三次元時間を含んで、根源—発展—創新という三重の創造の橋渡しをしている。研究対象の深さと広さは研究者の深さと広さを要求している。高い品格の漢字文化研究は高い學術氣品を造っている。漢字文化の審美創造は同時に審美の民族を創造している。新しい時代の学者は過去を調べて未来を予見する腕前を持って、人類文明と一緒に前進しなければならない。文化の元始の

点は輝かしい。初めての創造として替わられることができなく、軽視されることができなく、はては超えられることができない。げれとも、起点として、それは発展しなければならない。発展はそれに永久不変の生命価値を持たせる。未来への出発点として、それは必ず未来に超越される。超越はそれに限りない存在の価値を保有される。^① 漢字文化の研究者として、我我は歴史的感じも持てば使命の感じも持たなければならない。歴史を忘れると根基を失って、ついに未来を失ってしまう。使命を忘れると希望を失って、ついに生命の意義を失ってしまう。その学術の使命が分るからこそ我我はこれまでの通り開放の気持で開放の研究を進める。こちらのシリーズは創造の精神を富んだ新作を真心をこめて待ち望んでいる。第三集として我我は「比較文字学」、「漢字心理学」、「中韓漢字比較研究」、「中日漢字比較研究」など出版する。

時代の転換は学術の転換を呼ぶ。学術の転換は転換した学者を期待する。

転換こそ生気を煥発することができる。転換こそ現代の学術理論の建設を与ることができる。

人人はいつまでも歴史の境遇のなかに生活する。漢字文化の研究は歴史の存在でもあれば限りない魅力を持つ歴史の課題でもある。

我我は独創の仕事に力を注ぐ。

絶えず独創しているこそ、我我は祖国と人類に対して耻じるところがない。

李人凡 臧克和

1998年4月南寧—上海

^① 「歴史の起点の超えられることができないと超えられることができる」ということについて、韓震の「歴史伝統を創造するように対処する」（「光明日報」1998年3月20日）を参照してよろしい。

Chinese Philological Study——The Enchanting Historical Subject (General Introduction)

The first series of The Series of the New View on Chinese Philological Study drew much attention since it came into scene. It was spoken high by the media and was chosen as textbooks by some colleges and universities. Moreover, it was nominated for The Third National Books Award. Many colleagues home and abroad hope to join in us. Now the second series comes into being after year's careful selection.

A series book makes a good view and a question of study triggers many deep considerations.

The first consideration is the difficulty of publication.

Sign with emotion for being tough in publications can frequently be heard in the academic circles, on the contrary, it's hard for the publishing circle to get good manuscripts. The solution to this problem is that publishing and academic circles should joint hands to take it serious to contribute more exquisite books to readers. At the beginning plan of The Series of the New View on Chinese Philological Study, we decided to start at a high point. On our way to the top, although we are still far from it, we will go on the path.

The second consideration is how new achievements can be made in Chinese characters studies.

China is a great nation with a long history and unique culture. Chinese character is by itself a great creation. To

study it, we should diversify the approaches and focus on the construction of ontological philology, from the description, interpretation and summarization of the generation of Chinese character to a deeper level of theorization.

The first series intended to confine the field of study and distinguish itself by its broadness. The Comprehensive Study on Chinese Character Culture dealt with the methodology of the study on Chinese character; Chinese Character and Calligraphy Culture underwent the cultural pursuit on the calligraphical style and character formation; The Character System in Shuo Wen Jie Zi and China Ancient History (In 1999 the title was changed into Approaches to the Study of the Character System in Shuo Wen Jie Zi) scanned the genuine features of Chinese character; Chinese character and Confucian Thought intended to start a dialogue between characters and philosophy and Confucian classics. The first series, in a word, underwent a cultural study on literature, history, philosophy, Confucian classics and art in the light of the system of Chinese Characters.

The second series distinguishes itself by the specification and depth of the study. The Study on the Lesser Seal Characters in Shuo Wen Jie Zi made a systematic approach on the development from the lesser seal character to the regulated character; The Study on the characters on Silk found at Ma Wang Dui concentrates on an exhaustive analysis of the formation of the characters on silk; The Morphology of Chinese Characters traces and foresees the form and formation of Chinese characters. The second series constructs the morphological system of Chinese characters.

21'st century will be the age of the Intellectual Eco-